

## ちよだの森歯科診療所

正会員 小川博央君

正会員 萬田隆君

建築の構成は極めてシンプルである。平面は短辺 5 スパン、長辺 11 スパン、計 55 個の正方形が整然と並べられたグリッドである。グリッドの一単位は 2700×2700 グリッドの正方形で、この寸法は歯科の診療スペースの大きさに対応している。各正方形の壁面には幅 1800 の開口が設けられる。開口が窓寸法の場合は 1800×1800 の正方形となり、通り抜ける部分は高さ 2100 の扉寸法となる。この寸法の体系は厳密に守られているためプランだけ見ていると単調な印象を受けるが、実際に立ち上がった建築は極めて豊かな空間となっている。この豊かさは、55 個の正方形のうち 10 個を中庭としたことにより獲得されている。この中庭は建築計画的には、複数の診療スペースや用途に応じた様々な場が相互に干渉しないように距離をとる役割を果たしている。同時に中庭の配置は慎重に決定されており、グリッドに正対する方向においても、斜め方向においても必ず二つ以上の中庭が屋内空間の正方形を間に挟みながら連続して見通せる配置となっている。そのため室内のどの場所においても、異なる種類の明るさを持つ空間が混在する場に居ることになる。屋根の形状が緩やかに傾斜する偏心した方形となっているので、これらの中庭はそれぞれが異なる深さを持つ光井戸のなり微妙な明るさの違いを生んでおり、さらに室内の陰影に多様さを創り出すことに成功している。

グリッドの交点は 900×900 の十字形の壁柱を構成している。この壁柱と外周部を耐震壁としているのだが、構造的要素は空間全体のシステムの中に組み込まれているため、ほとんどその存在が意識されることがない。また柱周りのディテールは完全に消去されており、構造体も含めてシステムの純粋性が損なわれないように明確な意図を持って計画されている。外観に開口はほとんどなく、シンプルなヴォリュームとしてデザインされている。周辺の住宅に比してやや大きな平面であるが、緩やかな勾配屋根によって外周部が低く抑えられているので圧迫感を与えるようなことはない。また内部と同様に、ヴォリュームとして存在を損なわないように屋根の端部や軒樋などが露出しないよう丁寧に納められている。

このような建築の姿はミニマリズム建築の系譜に位置づけられるが、ミニマルにすることが目的になっているわけではない。グリッドシステムによって創られる空間の豊かさを純化するための手段としてのミニマルなディテールや架構であると理解できる。近年、本来は手段であるべきはずの様々なテクニックを表現として用いるような、手段が目的化した建築が少なくないように思われるが、この建築はそれらとは一線を画している。空間を構成するアイデア、歯科医院としての建築計画、構造形式とディテールが一貫しており、それらが高い次元で空間として結晶した優れた作品である。

よって、ここに日本建築学会作品選奨を贈るものである。